



森ボラ 通信

第73号 2008年6月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 : Fax:241-8308

E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■ トピックス

◆ 「幌南の森」看板が設置される

3月下旬のミズナラの伐採から始まり、約3か月余りの時間を掛けて漸く「幌南の森」の看板が出来上がり、5月23日に藻岩山の現地に設置しました。

今回の看板は、柱の部分はミズナラ、看板本体の表示面は2004年の台風18号で倒れた神宮のカラマツから製材した板を2枚合わせたもので非常に立派な看板が完成しました。板を決めるにもカラマツ、ハルニレなどの検討がなされ、また看板のデザインにも色々な注文が出てきて完成までに時間がかかりましたがレイアウトの検討、文字の彫り込み、フクロウ・クマゲラのデザイン・彫り込み等多くの人々の能力が発揮されました。改めて我「北海道森林ボランティア協会」の人材の多彩な面を垣間見ることができたように思います。

5月26日(月)には、幌南小学校の関係者、及び今回、活動の資金面での協力者であるモーニングロータリークラブ関係者等の人々が現地に集まり、お披露目をしました。

関係者の皆さんも大変喜んでくださいました。また一つ新たな人達との絆を結ぶことが出来たと思います。



(記、荻田)

小さな貢献

この看板の板は端が少し腐れかかっています。2004年9月の18号台風で倒れてしまい腐れかかったのを助け起し、私たち森ボラが製材・乾燥して甦ったものです。

森林は二酸化炭素を吸収して炭素として保存し、地球温暖化防止に貢献しています。しかし木はやがて腐ったり燃えたりすると酸素と結びついて再び二酸化炭素となり空气中に放出されます。

つまり森林は二酸化炭素を吸い取って、なくしているのではなく貯蔵しているのです。しかし、その森林がもしも無くなったら大量の二酸化炭素が排出されるので、長く腐らせないで使うことが大事なのです。小さな、小さな貢献ですが、これは象徴的なものとしてこの看板の前に小学校5年生と6年生が今年の夏から来た時に伝えて下さるよう除幕式で先生方をお願いしました。

あの台風の日には森ボラは植樹のために中国に旅立ったのも他生の縁でしょうか。またこの倒れた(定年になった)木を使って看板に活用できたのも、平均年齢64歳の森ボラ会員の誇りです。

(記、酒井)

◆ 野鼠にめげないバイオマスヤナギ

5月29日、晴れてはいたが風が強く肌寒い中、空知郡南幌町の晩翠工業団地緑地帯に、三基開発株の吉嶺さんと会員16名が集まり、昨年11月27日に挿したバイオヤナギの生育調査と草刈を行った。

同ヤナギは三基開発株と共同でバイオマスヤナギの試験栽培をしているもので、王子製紙株森林博物館の好意で分けていただいた2種類の優良ヤナギ、エゾノキヌヤナギとナガバヤナギ(オノエ)ヤナギの各4個体75本ずつ計600本を0.6haに挿し木したもので、半年振りの再会である。

事前調査では野鼠の被害がひどく(被害率3~75%)壊滅的な状況が予想されていたが、それにも負けず、95~100%の活着率で新芽を出していた。

なかには余りにも小さく草に紛れて踏まれた木や毛虫に食われた木もあったが、遠望すると雑草の緑の中に3列のヤナギの新緑が映えていた。

野鼠の被害は場所的なことも考えられるが、総じてエゾノキヌヤナギの方の成長が良いようであった。秋までに、天候、雨、風、野鼠、毛虫、病気等の影響を受けどうなるか楽しみである。



エゾノキヌヤナギ



ナガバヤナギ

種類	エゾノキヌヤナギ				ナガバヤナギ			
記号	I-82	I-25	I-62	I-110	I-27	T-27	C-47	S-3
野鼠被害率(%)	44	75	64	4	3	4	8	3
活着率(%)	95	99	96	97	100	99	97	100

一方、草刈の方は、直前に草原を耕運しただけで除草していない所に挿し木をしたので、雑草はまだらではあるが根ががっちり生え除去に苦労した。次の挿し木の時は、事前に2回以上は耕運し雑草を退治しておく必要があるなど、やらなければ分からないことが多々あると反省させられ終了した。帰りには、疲れと冷えた体を癒しに近くの「ハート&ハート」南幌温泉へ。(記、和田)

◆ 森は海の恋人植樹祭に行ってきました。

昭和が平成に元号が変わった年、1989年9月に気仙沼湾(宮城県)に注ぐ大川源流の室根山(岩手県)に何百枚もの大漁旗が翻り、初めて開催された「森は海の恋人植樹祭」も平成20年の今年に記念すべき20回目の植樹祭が6月1日に室根の「ひこばえの森」で行われました。もう10度目位になるのでしょうか?私も2年振りに参加してきました。この植樹祭には、毎年800~1000名が全国から集まります。しかも、リピータが多いのが特徴です、前に自分が植えた木がどの様に育っているのかを楽しみに来る人も多いと思います。従って、参加するたびに懐かしい顔に会う事が出来ます。この植樹祭に何故この様に多くの人達が集まるのでしょうか? その要因としては2つ程あげられると思います。

その一つは、何と言っても「森は海の恋人」という非常にロマンチックなこのネーミングにあると思います。このフレーズは、この植樹祭の提唱者であり気仙沼湾で牡蠣の養殖業を営んでいる畠山重篤さんが知人の歌人熊谷龍子さんをお願いし、熊谷さんを何度か海に案内する中で生まれた一首 “森は海を 海は森を恋ながら 悠久よりの愛紡ぎゆく” と詠まれた歌から誕生したということです。日本人にとっては琴線をくすぐる言葉です。畠山氏は、当時赤潮により売ることが出来なくなった牡蠣の海を見て、自分達の生活の糧でもある海の環境を守るには川の上流にある森が重要な役目を担っている事を認識し、川の浄化と森の重要性を上流部の地域の人達

にも働きかけて仲間の漁師さん方と森の地域住民とが一緒になっての植樹活動を推し進めることにしました。

二つ目としては、行政によるお仕着せの植樹祭では無いという事です。確かに植樹は1年に1回の行事であり、その時に木を植え、以前植えた木の手入れをしますが植樹した木の普段の手入れは地元室根町12区自治会の人々が担ってくれています。そして、植樹祭はこの地域の一大イベントとして全国からの参加者と地元の人達が共に交流できる事を楽しみにしています。植樹祭終了後にも同じ思いを持つ人々が交流できる場(こっとな水車祭り)が設けられているところにあると思います。

今年も植樹祭前日の夜は、気仙沼の「福よし」(小料理店)でいつもの如く美味しい魚料理とお酒を頂く事ができました。ここ「福よし」は、まんが「美味しんぼ」にも出てくる拘りの店主が本当に美味しい海の幸を食させてくれます。なら炭で焼いた魚の美味しさは魚好きの私にはたまりません。

今年の植樹祭でもミズナラ・ブナ等の苗木を植えてきました。また、以前植えた所も訪れて自分達が植えた木の育ち具合を確認し、周りの草刈りをしてきました。

今年は、20回目の記念すべき植樹祭ということで植樹祭の後、気仙沼港から船で舞根(もうね)湾にある畠山さんの水産養殖場に特別仕立ての船もだされました。海から見る山はまた違った様相を見せます。私達、森林で活動する者としては、川やその先の海にも思いを巡らせた森づくりをしていきたいものです。(記、荻田)

■ 今月の幹事会

出席者：荻田・酒井・佐野・杉本・高野・津金・西野・棟方・山中・和田

1. 連絡事項

・北海道フットボール協会(コンサドーレ)と協働、支笏湖湖畔の国有林に「コンサの森」づくりを支援します(植栽指導・森づくり支援)。

・7月5日(土)第4回石狩管内森林ボランティア交流会に参加します。懇親会は1,500円の会費が必要です。

9:00 札幌市リンケージプラザ集合、円山公園までの沿道のゴミ拾い活動を実施。

12:30 懇親会

■ おしらせ

◆ ヤナギ試験場に看板設置(6月11日)

空知郡南幌町の三基開発(株)栽培試験場中央道路付近に、6月11日小型の表示板を設置しました。栽培地は道路から下がっているため目に入りにくいです。夏までにもう一基設置する予定です。

低地に位置するため、次の看板は若干足の長い看板にする計画です。

◆ 2008年秋の研修旅行(予告)

訪問先 : 阿寒(前田一步園)、津別・置戸クラフト工房等見学、
北見工業大学(ヤナギペレット製作見学)

日時 : 2008年10月7日(火)~9日(木) 2泊3日コース

参加者 : 15~25名、参加費 : 28,000~30,000円(概算)

現在、研修旅行を計画しています。参加希望者は作業参加申込書で申込みをお願いします。



■ 活動履歴

活動日	行事	参加人数	活動内容
6月17日(火)	アイケンの森	4名	除伐
	りんご園	15名	摘果
6月12日(木)	札幌工科専門学校	2名	技術実習支援
	アイケンの森	10名	苗移植
6月11日(水)	野幌	14名	下刈り
6月9日(月)	幹事会	11名	
6月7日(土)	澄川	13名	木工・きのこメンテ・苗畑
6月5日(木)	アイケンの森	16名	笹刈・苗畑造成
6月2日(月)	アイケンの森	14名	トイレ作成・苗畑造成
5月29日(木)	南幌町	16名	ヤナギ調査・草刈
5月27日(火)	木工	7名	杉本邸
5月26日(月)	幌南の森	13名	看板設置・除幕
5月23日(金)	りんご園	7名	摘果
	幌南の森	13名	看板設置
5月21日(水)	アイケンの森	14名	薪づくり
5月20日(火)	りんご園	13名	りんご花見会
5月19日(月)	アイケンの森	18名	薪づくり

■ ひとこま

◆ 活動報告 「6月2日・アイケンの森・参加者14名」

バイオトイレ完成

アイケンの森のゲートを入ると左手は一位の林になっているがその茂みの中にバイオトイレが完成しました。

3月に北大名誉教授の寺沢先生にバイオトイレの講演をしていただいたことが実を結んできました。写真のテントを見て思い出深い方も多いかと思いますが以前トイレ論争があったときに購入したテントが甦っています。

穴を掘って中に移動式製材からでてきたオガクズを入れアイケン工業から頂いた板を2枚ほどよい幅に渡して完成です。使ったら少しずつオガコを振りかけてかき混ぜましょう。トイレトペーパーは置かずに自前品使用としましょう。

話は飛躍しますがいまヨーロッパで始まっている人間の糞尿のバイオマスヤナギへの散布試験が日本でも始まることを期待しています。(記、酒井)

